

教育原理⑮

令和4年7月11日(月)
八戸学院大学短期大学部

現代の教育課題

-多様性**(DIVERSITY)**を受け入れる教育を目指して-

- 教育における多様性(Diversity)の重要性
- 異なるルーツを持つ子どもたちの教育
- 社会的排除と闘うための教育



第1節

教育における多様性(DIVERSITY)の重要性

1. 「多様なこども」を受け入れること

(1)“Diversity”（多様性）とな何か

近年、様々な周囲の環境の変化から、私たちは従来の国境にとらわれず、国籍や人種、宗教の違いを超えて生活するようになってきた。

→多様な価値観や文化、性別、宗教などの違いを超えて理解し合うことが求められる。

= Diversity



1. 「多様なこども」を受け入れること

(2) 日本語のダイバーシティ

労働の現場で多様な人材を受け入れることや、女性の社会進出を進めるといった、狭義の意味で使われることが多い。

文化的背景・
経済状態

国籍・人種・宗教

理解・受容

LGBT

障害の有無

2. 教育現場で必要な「Diversity」の視点

(2) 宗教の違い

宗教の慣習等によっては、課題が生じる場合も…。個別の配慮が求められるかもしれません。

(3) 貧困への理解と支援

経済的な「格差」が実際にあることを理解したい。→ひとり親家庭、非正規雇用で働く保護者、保護者の病気等による無収入など。

その理解の上で、教育としてできること（例：福祉との連携）を考え、実行していくことが求められる。

2. 教育現場で必要な「Diversity」の視点

(4) LGBTへの理解

性的マイノリティ（少数派）の子どもたちもいることを、教員として理解しておく。

→ 「いじめ」や「排他」につながらないように！

(5) 学校教育のなかでのDiversity

子どもたちの主体性を育て、深い学びを可能とするためにも、子どもたち一人一人の存在そのものを大切にする

「Diversity」の概念を重要に捉えたい！！

第2節

異なるルーツを持つ子どもたちの教育

1. 教育の中で「違う」文化を受け入れる

(1) 違う国の文化を尊重するDiversity教育

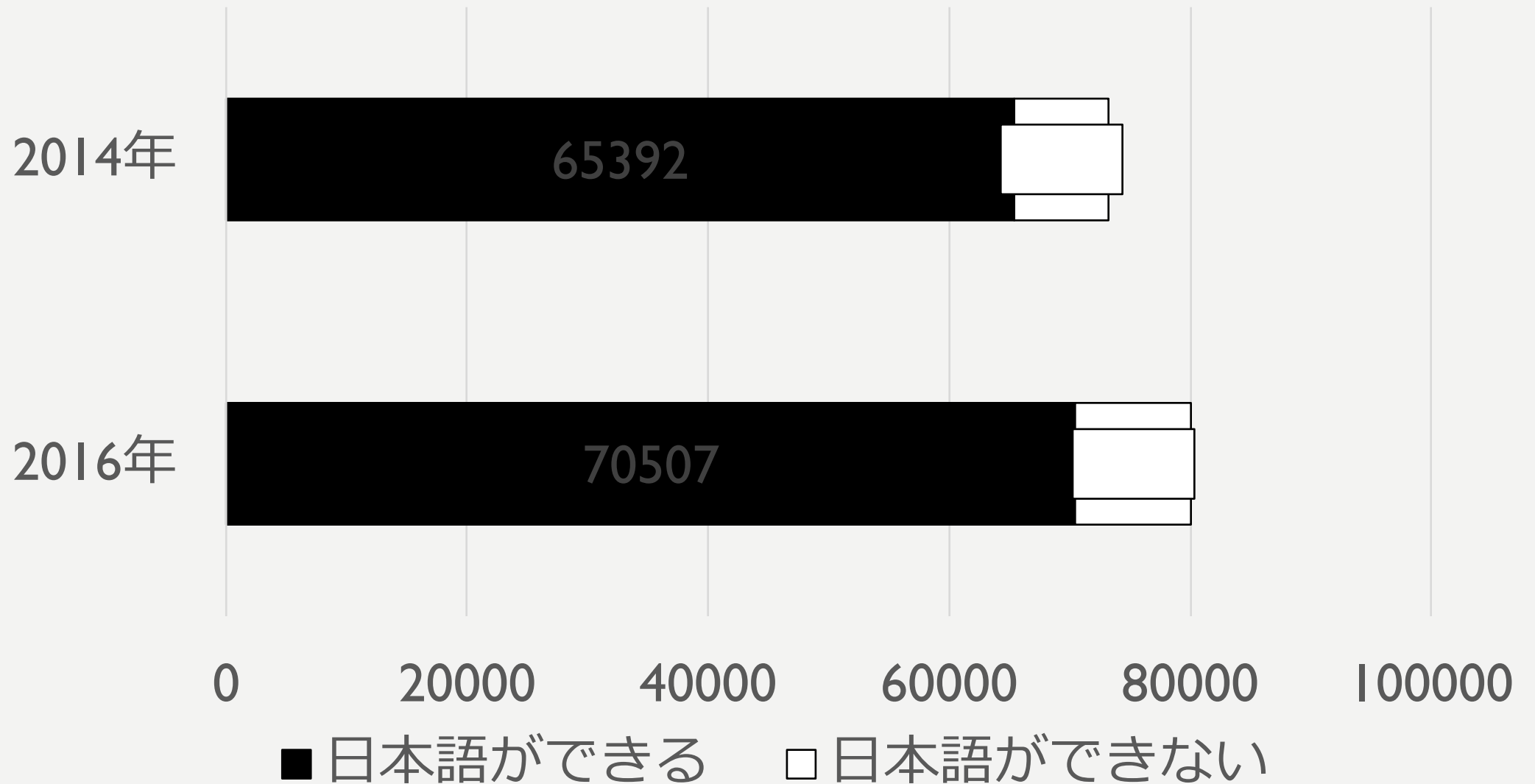
ロンドンのチルドレン・センター（子育て支援施設を併設する保育園）にはアフリカ・東欧・中東にルーツを持つ子どもたちが通う。

→子どもたちへのサポートは、英語教育と併せて、それぞれの母国語や母国の文化を尊重した教育を展開している。

→保護者へも様々な支援を行う。

1. 教育の中で「違う」文化を受け入れる

(2) 日本語が話せない子どもたち



1. 教育の中で「違う」文化を受け入れる

(2) 日本語が話せない子どもたち

こうした子どもたちに、「特別の教育課程による日本語の教育」が行われることが前提ではあるが... (実施率74.3%)

→教員の不足、生徒数によりその実施をしていない

<現状の課題>

- ・子どもたちが日本語を話せないことで、「いじめ」や「不登校」の原因となりうること。

- ・保護者が日本語の読み書きができないことで、子どもの学校正確に不利益を生じさせてしまっていること。

1. 教育の中で「違う」文化を受け入れる

(3) 異なる宗教の問題

宗教によっては、食べられるものが限られたり、「祈り」の時間があつたりと様々であることを、教員が理解しておきたい。

(4) 「多文化共生教育」という考え方

日本の教育制度は、単一民俗・単一国家のように考えられ、作られているが、現代の現実はそうではなくなってきた。

「多文化共生」の視点を持つことが求められる時代である。

(5) 教育からの社会的排除をなくすために

上記の様々な課題を克服するためには、教員自身が、多文化と関わり、多文化を理解し、受け入れていくことが求められる。

第3節 社会的排除と闘うための教育

1. 困難を抱える子どもたちを受け入れる

(1) 見えにくい「相対的貧困」

日本では、約7人に1人の子どもが、貧困の状態にある、と言われている。

「相対的貧困」は、「誰もが当たり前に持っているもの（例えば、ゲーム機や自転車など）を持たない貧困」であり、学校や保育施設からは見えにくい性質を持つ。

→子どもの社会的排除を引き起こすリスクを高める、発達に影響を及ぼす

→私たちにできることは何か？

1. 困難を抱える子どもたちを受け入れる

(2) 貧困対策と学校

学校や保育施設が、そうした子どもを発見し、支援につなげるきっかけになりうる場である！！

→教師自身が発見し、具体的なサポートを提案できるようなスキルを持つことが求められる。



2. 性的マイノリティの子どもたち

(1) LGBT教育の必要性

性的な嗜好や、自分のせいに対する認知は一人一人違っている。このことを学校教育や保育の中でも理解し、互いに認め合うことが求められる。

→教育の役割は大きい！



2. 性的マイノリティの子どもたち

(2) 社会的排除を防ぐ取り組み

性的マイノリティの子どもたちは、学校で排除されやすい存在である、という現実がある。

「いじめ」～身体的暴力、言葉による暴力、性的な暴力、無視・仲間はずれ→自殺や自傷行為のリスクへ

→まずは、教師自身が、LGBTについて知り、受け入れる姿勢を持つことが重要である。



参考文献

1. シリーズ知のゆりかご「いまがわかる教育原理」

第14章 現代の教育課題－多様性（Diversity）の重要性

西本望編 2018年 株式会社みらい